

第157回 令和8年1月19日（月）

「青森の良さについて。」

私の母方の田舎は青森県だったので、幼いころから青森によく行く機会がありました。本州の最北端で、親せきがいなければあまり訪れることもないかもしれませんので、ちょっと紹介しておきます。

東北新幹線がない時代、青森まで10時間近くかかりました。そこで利用したのが寝台車です。カプセルホテルのような狭い寝台で一晩中電車の音を聞いて眠ります。寝台車の良さは目覚めたとき窓の外を見ると一面銀世界、どこまでも真っ白です。上野を出発するときには乾燥した夜だったので、遠くに來た実感がありました。

青森駅から弘前駅に行くのですが、どちらも雪景色なので大した違いはありません。（現在青森はものすごく発展しています。）桜の名所になっている弘前城は雪の中でもきれいです。津軽の殿様はモモに当たって亡くなったとされていますが、ミイラとしてご遺体がのこされているので今でも何かの機会に公開されたりします。

青森でおいしいのはリンゴが有名ですが、実はホタテやシャコもよく食べられています。私は何末に「津軽そば」をよく食べるのですが、これは知らない人が食べると「コシがまったくなくておいしくない」と思うかもしれませんが、やみつきになります。

観光地はあまりないのですが、下北半島のほうに行くと恐山などがあります。口寄せと言って亡くなった方を呼び寄せるイタコと呼ばれる巫女さんのような方がいましたが、今もいるのかはわかりません。信じるか信じないかは自分次第ですが、私は信じない派でした。

恐山の風景は荒廃した火山台地で地獄に例えられていました。一度訪れたことがありますが、不気味な風景であることは確かです。

観光客は8月上旬、「ねぶた祭」の日に集中します。老若男女、跳人と呼ばれて独特の踊りをしながらおおきな張り子を引っ張っていきます。青森ねぶたは戦に勝って宝物を積んで帰ってきた様子と言われています。一方弘前などの小さな町で行われる「ねぶた」は小さな張り子を引っ張るのですが静かで風情あるお祭り、私はこちらのほうが好きでした。

若い人はあまり話ませんが、独特の津軽弁は年配の方が話すと普通の方にはわからないと思います。私は母が姉妹と家で津軽弁を話していたので理解できました。慣れると温かみがあってとても良い方言です。

新幹線ができて便利になったので興味のある方は訪れてみてください。